

明治美術学会 会員業績録

(2018年4月1日～2019年3月31日)

この秋、会員に対し2018年4月1日～2019年3月31日の間に発表した主要論文等3点以内の報告を依頼した。以下がそのリストである。
 なお、よせられたもののうち上記期間以後のものは省いた。リストの作成は奥間政作がおこなった。

名前	共著者	論文名/書名	掲載誌/掲載書	巻号	発行	刊行年月
青木茂		新・旧刊案内74・75・76・77	『一寸』	第74 ～77号	学藝書院	2018年6月 ～2019年2月
赤木美日		作家活動と《金色うさぎのレシピ》(イタリア黄金テンペラの教材研究)	『美術教育研究』	第23号	美術教育研究会	2018年6月
赤木里香子		戦前日本美術教育史研究の歴史—美術教育史研究の起源と発展	『美術教育学叢書② 美術教育史の歴史から』		美術教育学会	2019年3月
荒井経		日本の美術教育における学位と文化財の復元	『美術史論壇』	第47号	韓国美術研究所	2018年12月
荒井経		“クールジャパン”と日本画	『日本批評』	第20号	ソウル大学日本研究所	2019年3月
荒屋鋪透		『カール・ラーション—スウェーデンの暮らしを芸術に変えた画家』			東京美術	2018年9月
石井香絵		牧野克次の画業—京都・ニューヨーク時代を中心に	『比較文学年誌』	55号	早稲田大学比較文学研究室	2019年3月
石井元章		Studenti e setaioli giapponesi a Torino	<i>Seta: Il filo d'oro che uni il Piemonte al Giappone</i>		Silvana Ed.	2018年9月
石井元章		『イタリア名作絵画展覧会』(1928年)とエトトレ・ヴィオラの功績	『イタリア学会誌』	68	イタリア学会	2018年10月
伊豆井秀一		民藝運動と和紙体験学習センター	『NPO法人 RAC2018年度研究集会フォーラム』		NPO法人 街・建築・文化再生集団	2018年9月
伊藤泰雄		顔認証で特定した少年岡倉天心—高島学校の集合写真より—	『LOUTUS』	No.39	日本フェノロサ学会	2019年3月
伊藤佳之		【研究ノート】福沢一郎の1950年代—いまだ不明瞭な「周縁」	『美術運動史研究会ニュース』	No.171	美術運動史研究会	2019年2月
伊藤佳之	大谷省吾、 小林宏通、 春原史寛、 谷口英理、 弘中智子	『超現実主義の1937年—福沢一郎『シュールレアリスム』を読み直す』			みすず書房	2019年2月
稲賀繁美		藤田嗣治の「戦争画」再考：世界史・アジア史の視点から	『美術手帖』BT 2018年8月号増刊	1070号	美術出版社	2018年7月
稲賀繁美		ギュスターヴ・モローと亀	『図書』	2018年5月号	岩波書店	2018年8月
稲賀繁美		日本美術と中国美術の〈あいだ〉(上、下)	『あいだ』	244・ 245号	「あいだ」の会	2018年12月・ 2019年1月
井上由理		BOURDELLE ET LE JAPON	TRANSMISSION/ TRANSGRESSION (展覧会図録)		Paris Musées	2018年10月
井上由理		ブールデルと佐藤朝山(玄々)	『近代彫刻の天才—佐藤玄々〈朝山〉展図録』		求龍堂	2018年10月
今泉宜子	矢内賢二	明治神宮のすべて	『明治、このフシギな時代3』		新典社	2018年12月
今西彩子		金鈴社の成立と作画の特徴—鍋木清方を中心に—	『鍋木清方と金鈴社—吉川靈華、結城素明、平福百穂、松岡映丘とともに—』		鎌倉市鍋木清方記念美術館	2019年2月
今橋映子		明治大正期日本のアートドキュメンテーション—美術批評家・岩村透による国内外美術情報の構築と思想(下)	『超域文化科学紀要』	第23号	東京大学大学院総合文化研究科超域文化学科専攻	2018年10月

今橋映子	カタログアーカイブの形成と展覧会批評の磁場—東京大学駒場博物館資料室の軌跡と学術教育活動の実践—	『Fashion Talks...』 [服飾研究]	第6号	公益財団法人京都服飾文化研究財団	2018年10月
岩切信一郎	古郵版画と大黒屋・五代目松木平吉	『版画芸術』	No.181	阿部出版	2018年9月
岩切信一郎	芳翁考—要摺から新聞発行へ—	『一寸』	76号	学藝書院	2018年12月
岩切信一郎	浮世絵続絵のパノラマ世界	『パノラマ浮世絵「幕末・明治の東京・横浜風景」』		阿部出版	2019年2月
植田彩芳子	煥美協会考—フェノロサ講演の余波—	『京都画壇の明治』展図録		京都市学校歴史博物館	2018年6月
植田彩芳子	横山大観と今尾景年—文展審査での対立をめぐって—	『京都国立近代美術館ニュース 視る』	496	京都国立近代美術館	2018年11月
植田彩芳子	太田喜二郎研究—その画業と生涯—	『近代京都の美術工芸—制作・流通・鑑賞—』		思文閣出版	2019年3月
植野健造	市史抄片157 柳川生まれの水彩・パステル画家 富安道義	『広報やながわ』	第319号	柳川市	2018年7月
植野健造	キャンパスギャラリー 伊藤研之『崖の上の樹』	『七隈の社』	第15号	福岡大学	2019年2月
内山かおる	研究ノート 与謝蕪村筆「蛾帽露頂図巻」考	『MUSEUM』	第677号	東京国立博物館	2018年12月
内山かおる	芭蕉と杜国—月溪筆「渡月橋」蕪村賛—	『聚美』	第30号	聚美社	2019年1月
遠藤みゆき	マジック・ランタンの両洋	『マジック・ランタン 光と影の映像史』		青弓社	2018年8月
及川茂	L'Album de Kyosai			Philippe Picquier	2018年10月
及川茂	最近の欧文による浮世絵研究文献	『浮世絵芸術』	176・177	国際浮世絵学会	2018年7月・2019年1月
及川茂	Japanese Crêpe Prints	The Collection of Vincent Van Gogh		Van Gogh Museum Amsterdam	2018年
大谷省吾	「物質」をキーワードに瀧口修造と日本の前衛美術について考える	『現代の眼』	629号	東京国立近代美術館	2018年10月
大谷省吾	福沢一郎『シュールレアリスム』と瀧口修造『近代芸術』	『超現実主義の1937年 福沢一郎『シュールレアリスム』を読みなおす』		みすず書房	2019年2月
大谷省吾	人間嫌いのヒューマニスト 福沢一郎の今日的意義について	『福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ』図録		東京国立近代美術館	2019年3月
大谷芳久	時に抗いし者たち—私の小菩薩峠 (29)	『一寸』	75号	学藝書院	2018年9月
大谷芳久	時に抗いし者たち—私の小菩薩峠 (30)	『一寸』	76号	学藝書院	2018年12月
大谷芳久	時に抗いし者たち—私の小菩薩峠 (31)	『一寸』	77号	学藝書院	2019年3月
大前勝信	片山公一 福山を愛した洋画家	『ふくやま美術館蔵品展示目録』	No.142	ふくやま美術館	2018年4月
大前勝信	佐々田憲一郎と福山洋画壇について	『ふくやま美術館・ふくやま書道美術館研究紀要』	第9号	ふくやま美術館	2019年3月
大村雅章	カルロ・クリヴェッリのテンペラ画における石質盛り上げ技法II	『美術教育学』	50号	大学美術教育学会	2019年3月
岡本隆志	“超絶技巧”を生み出す力	『明治美術の一面—研ぎ澄まされた技と美展』図録		宮内庁	2018年11月
岡本隆志	明治前期の宮川香山の作風について—第一回内閣勲業博覧会出品作を中心に—	『三の丸尚蔵館年報・紀要』	第24号	宮内庁	2019年3月
岡本隆志	宮内庁三の丸尚蔵館の近代工芸	『特別展 美を紡ぐ 日本美術の名品—雪舟、永徳から光琳、北斎まで—』図録		読売新聞社	2019年3月

奥間政作		藤田と沖縄一南米と戦争画をつなぐ場所	『美術手帖』BT 2018年8月号増刊	1070号	美術出版社	2018年7月
五十殿利治		「絵の前で泣く」—岡本太郎とピカソの静物画	『国立新美術館紀要』	5号	国立新美術館	2018年12月
五十殿利治		「山口勝弘日記」(仮称)の調査研究について	『藝叢』	34号	筑波大学人間総合科学研究科芸術学研究室	2019年3月
貝塚健		藤島武二と仏教—真珠と海	『館報』	67号	石橋財団ブリヂストン美術館	2019年3月
金子一夫		工部美術学校の彫刻教育の歴史的意義	『彫刻I 彫刻とは何か』(小田原のどか編)		topofile	2018年6月
金子一夫 (編著)	赤木里香子 他	『美術教育学叢書② 美術教育学の歴史から』			学術研究出版	2019年3月
金子一夫		贈与交換システム論的美術教育学の整備—要素の構造、参照源そしてシステム作動—	『美術教育学』	第40号	美術教育学会	2019年3月
河田明久		収集から接收へ—占領期の戦争画	『没後50年 藤田嗣治展』図録		東京都美術館、他	2018年7月
河田明久		フジタの世代	『藤田嗣治 戦時下に描く新聞雑誌寄稿集』(林洋子編)		ミネルヴァ書房	2018年8月
河田明久		「ビーポーとは何か」を考える手がかりの5章	『ART RAMBLE』	62号	兵庫県立美術館	2019年3月
木田拓也		富本憲吉の作陶理念：陶芸におけるオリジナリティ ('The Pursuit of Originality in Ceramics)	<i>Vessel Explored, Vessel Transformed: Tomimoto Kenkichi and his Enduring Legacy</i>		JOAN B MIRVISS LTD with SHIBUYA KURODATOEN Co. Ltd.	2019年1月
木田拓也		<i>Insights from Gurcharan Singh's pottery collection: Ceramics art in Japan around 1920 as seen by an Indian student</i>			Japan Foundation, New Delhi	2019年3月
木下直之		『東京大学本郷キャンパス』(共著)			東京大学出版会	2018年6月
木下直之		『動物園巡礼』			東京大学出版会	2018年11月
木下直之		『木下直之を全ぶ集めた』			晶文社	2019年1月
蔵田愛子	椎野晃史編集	岡不崩と植物学者の交流	『芳崖四天王資料集』		福井県立美術館	2018年12月
呉孟晋		「陳老蓮画蘇長公像」について—長尾雨山関係資料のなかから—	『山本寛山の書と学問—湖南・雨山・鉄斎・南岳との文人交流ネットワーク—』展図録		関西大学博物館	2018年4月
呉孟晋		上見る鷹—齊白石の鷹図をめぐって—	『中国近代絵画巨匠：齊白石』		中国・広西美術出版社	2018年10月
呉孟晋		『京都国立博物館須磨コレクション図版目録 中国近代絵画1 齊白石』			中央公論美術出版	2019年3月
桑原規子		米国国務省による「人物交流」プログラムと1950年代の日米美術交流	『論叢』	26号	聖徳大学言語文化研究所	2019年3月
桑原規子		英文美術月報『アート・アラウンド・タウン』総目録(1952—1976)	『言語文化研究』	18号	聖徳大学大学院言語文化学会	2019年3月
児島薫		大衆が導くナショナリズム：奉祝の時代	『近代画説』	27号	明治美術学会	2018年12月
児島薫		女性画家としての栗原玉葉—「女性性」をアイデンティティとして	『栗原玉葉：長崎がうんだ、夭折の女性画家』		長崎文献社	2018年12月
児島薫		女性像が示す近代、大衆、ニッポン	『モダン美人誕生岡田三郎助と近代のよそおい』		ポーラ美術館	2018年12月
小寺瑛広		徳川昭武の第二次留学と在仏日本人ネットワーク	『仏蘭西学研究』	44号	日本仏学史学会	2018年6月

小寺瑛広		名勝旧徳川昭武庭園(戸定邸庭園)の歴史(第2章第1、第2の1-2)	『名勝旧徳川昭武庭園(戸定邸庭園)保存活用計画』		松戸市教育委員会	2019年3月
酒井忠康		『渋沢龍彦の記憶』(共著)			河出書房新社	2018年4月
酒井忠康		『展覧会の挨拶』			生活の友社	2019年3月
坂口英伸		セメント美術を語る10 セメント美術工作研究会	『コンクリート新聞』	第2446号	コンクリート新聞社	2018年4月
坂口英伸		水先案内人としての文化資源学	『文化資源学』	第16号	文化資源学会	2018年6月
坂口英伸		戦後日本の野外彫刻展に関する研究:小野田セメント株式会社による協賛を読み解く	『国立新美術館研究紀要』	第5号	国立新美術館	2018年12月
迫内祐司		近代日本における戦争と彫刻の関係—全日本彫塑家連盟を中心に	『彫刻1』		トポフィル	2018年6月
迫内祐司		小杉放菴と芸術院	『創立99年 日本美術の精華 日本芸術院所蔵作品名品展』		小杉放菴記念日光美術館	2018年7月
迫内祐司		東京彫工会小史—明治期を中心に	『彫刻コトハジメ』		小平市平櫛田中彫刻美術館	2018年9月
佐々木央		『森鷗外と村山槐多の〈もや〉』			神奈川新聞社	2019年1月
佐藤道信		ジャポニズムの夢(仏文)	『深みへー日本の美意識を求めて—』展図録(ジャポニズム2018)		国際交流基金	2018年7月
佐藤道信		森羅万象の光と影	『手塚雄二作品集 光を聴き、風を視る』		青幻舎	2019年3月
澤田佳三		萬鐵五郎の雲と自画像—禅を視点とする解釈	『新潟県立近代美術館研究紀要』	第17号	新潟県立万代島美術館	2019年3月
猿渡紀代子		L'art figuratif et abstrait d'Onchi Koshiro(1920-1940)	<i>Vagues de renouveau. Estampes japonaises modernes 1900-1960</i>		Hotell Publishing	2018年9月
猿渡紀代子		長谷川潔と堀口大學の往復書簡	『流域』	第83号	青山社	2018年11月
猿渡紀代子		版画における温故知新	『日本版画協会会報』	第167号	日本版画協会	2019年1月
塩谷 純		黒田清輝 その信念と諦念	『日本美術の創跡』	Vol.23	クオリアート	2018年11月
志田康宏		「額装の日本画」展のテーマと裏テーマ	『美術運動史研究会ニュース』	No.167	美術運動史研究会	2018年6月
志田康宏		今日の批評と「批評の契機」	『MAPPING』	第9号	コンテンポラリーアートジャパン	2018年11月
志田康宏		コレクティブとしての「僕らの書展」	『美術運動史研究会ニュース』	No.170	美術運動史研究会	2018年12月
篠原聰		〔書評〕新関公子『歌麿の生涯』	『美術運動史研究会ニュース』	174号	美術運動史研究会	2019年8月
清水恵美子		私にとって文化資源学とは何か	『文化資源学』	16	文化資源学会	2018年6月
清水恵美子		西洋と東洋を越えて:岡倉天心	『nippon.com』		nippon.com	2018年8月
清水恵美子		五浦から世界へ—岡倉覚三と弟由三郎	『報』	528	日本ナショナルトラスト	2018年11月
白石恵理	パトリシア・フィスター 監修、リン・リグスと共編	Reevaluating Translation as a Driving Force of Scholarship (『翻訳の再評価:学問を深める原動力』)			国際日本文化研究センター	2019年2月
白石恵理		第4章 ド・ロ版画にみる日本イメージの受容と展開	郭南燕編著『ド・ロ版画の旅—ヨーロッパから上海～長崎への多文化的融合』		創樹社美術出版	2019年3月
白石恵理	坪井秀人、小田龍哉と共編	『日本研究をひらく』			晃洋書房	2019年3月

白河宗利	成田朱美・磯谷明子	伊藤麻の絵画技法—愛知県立芸術大学芸術資料館所蔵《赤い着物の半身像》の自然科学的調査—	『愛知県立芸術大学 紀要』	No.48	愛知県立芸術大学	2019年3月
菅原真弓		『月岡芳年伝—幕末明治のはざまに』			中央公論美術出版	2018年8月
菅原真弓		「浪花百景」—作品にみられる歌川広重学習を中心に	『人文研究』	第70巻	大阪市立大学大学院文学研究科	2019年3月
菅原真弓	狩野博幸(監修、編)	『浮世絵に描かれた刀剣と勇士の世界』			河出書房新社	2019年3月
鈴木廣之		磁器から陶器へ—19世紀後期における西洋の日本美術への関心の変遷—	『異文化を伝えた人々—19世紀在外日本コレクション研究の現在』(国立歴史民俗博物館編)		臨川書店	2019年3月
高木博志		『近代天皇制と社会』(編著)			思文閣出版	2018年10月
高橋直子		佐藤志津 その生涯と功績—私立女子美術学校を発展させた偉人—	『佐藤志津没後100年記念 女子美術大学と佐藤志津展』図録		佐倉市立美術館	2018年7月
滝沢恭司		郷土会と版画—新版画の評価体系の見直しに向けて	『浮世絵モダン』展図録		東京新聞	2018年4月
滝沢恭司		パリに生きた銅版画家 長谷川潔展(解説)	『パリに生きた銅版画家 長谷川潔展 リーフレット』		町田市立国際版画美術館	2019年3月
田島奈都子		「サクツ・コレクション 日本のポスター芸術 明治・大正・昭和の彩り」展—プライベート・コレクションと研究者の関係—	『大正イマジユリ』	No.13	大正イマジユリ学会	2018年6月
田島奈都子		戦前期の日本製ポスターにおける女性像—主題・髪形・ファッションの変遷を中心として—	『ビューティサイエンス』	第7号	ビューティサイエンス学会	2018年7月
田島奈都子		戦前期中国のたばこポスターと日本の印刷会社の大陸進出に関する考察	『たばこ史研究』	No.146	たばこ総合研究センター	2018年11月
立花義彰		静岡近代美術年表稿 昭和戦後編5	『静岡県博物館協会研究紀要』	42	静岡県博物館協会	2019年3月
立花義彰		森美根子著『日本統治時代 語られなかった日本人画家たちの真実』を読む	『美術運動史研究会ニュース』	170・171	美術運動史研究会	2018年12月～2019年2月
田中純一郎		評伝片岡球子の生涯と芸術—「ゲテモノ」が「本物」になるまでの軌跡	『没後10年 片岡球子 情熱の日本画』図録		井原市田中美術館	2018年9月
田中純一郎		コラム 橋本雅邦と「龍丘派」	『芳崖四天王資料集』		福井県立美術館	2018年12月
田中純一郎	柏崎諒	前田青邨《羅馬使節》再考—新寄贈資料の紹介をかねて	『早稲田大学會津八一記念博物館紀要』	20号	早稲田大学會津八一記念博物館	2019年3月
丹尾安典		武井守正のこと	『一寸』	第74号	学藝書院	2018年6月
丹尾安典		書を再視するためのノート	『早稲田大学會津八一記念博物館紀要』	第20号	早稲田大学會津八一記念博物館	2019年3月
丹尾安典		『男色の景色』			KADOKAWA	2019年3月
角田拓朗		『真明解・明治美術』(図録)			神奈川県立歴史博物館	2018年8月
角田拓朗		永遠なる明治—二世五姓田芳柳の願い—	『明治天皇紀附図 稿本』		坂東市立資料館	2018年10月
角田拓朗		明治初期洋画家の留学—五姓田義松の場合	『明治初期洋画家の留学とフランスのジャポニスム』		水声社	2019年2月
徳泉さち		『石を愛でる—盆石書画の世界—』			早稲田大学會津八一記念博物館	2018年11月
徳泉さち	浅井京子	『手鑑 文彩—旧富岡美術館所蔵』			早稲田大学會津八一記念博物館	2019年1月
富田章		夢二の自画像	『夢二線乱』図録		千代田区/東京ステーションギャラリー/株式会社キュレイターズ	2018年5月

富田章		横尾忠則の自画像	『横尾忠則 画家の肖像』図録		横尾忠則現代美術館	2018年5月
富田章		変貌する画家—吉村芳生の芸術	『吉村芳生—超絶技巧を越えて』図録		株式会社アートワン	2018年11月
中川智寛		谷崎潤一郎「私」試解—語りへの問い—	『芸術至上主義文芸』	44号	芸術至上主義文芸学会	2018年11月
中野慎之		第四回内国勲業博覧会の絵画	『京都画壇の明治』		京都市学校歴史博物館	2018年4月
中野慎之	高木博志編	明治維新と画壇の再編	『近代天皇制と社会』		思文閣出版	2018年10月
中野慎之	共著・森道彦	『古社寺保存法の時代』			京都文化博物館	2019年1月
新聞公子		『歌麿の生涯—写楽を秘めて』			展望社	2019年3月
新聞公子		特集 歌麿の生涯—写楽を秘めて—	『聚美』	31	聚美社	2019年3月
西山純子		遊行する人 平塚運—小論	『木版画の神様 平塚運—展』		千葉市美術館	2018年7月
西山純子		『新日本百景版画』について	『近代画説』	第27号	明治美術学会	2018年12月
橋秀文		一枚の写真から—広津和郎愛蔵の美術品について—	『神奈川近代文学館』(機関誌)	142	(公財)神奈川文学振興会	2018年10月
橋秀文		木下杢太郎の詩集『食後の唄』と『木下杢太郎詩集』の挿絵について	『神奈川県立近代美術館年報2017年度』		神奈川県立美術館	2018年11月
橋村直樹		《オディギリアの聖母子》と《悲しみの人》の両面アイコン(カストリア、ビザンティン博物館)をめぐる	『祈念像の美術(ヨーロッパ中世美術論集3)』		竹林舎	2018年7月
橋村直樹		ギリシア人画家ニコラオス・ギジス研究	『鹿島美術研究:年報別冊』	第35号	鹿島美術財団	2018年11月
橋本久美子		東京音楽学校・東京美術学校の「学徒出陣」の実態解明に向けて—記録と記憶によるアーカイブ構築のために	『東京藝術大学音楽学部紀要』	第44号	東京藝術大学	2019年3月
林みちこ	桑原羊次郎・相見香雨研究会編	『欧米美術行脚』と国際博覧会における活躍	『桑原羊次郎:郷土のエンサイクロペディア』松江市ふるさと文庫21		松江市歴史まちづくり部史料編纂課	2018年12月
原田平作		近代日本美術史と中村屋サロンに集まった作家たち	『中村屋サロンと會津八一—サロンにつどったアーティストたち』展図録		新潟市會津八一記念館	2018年6月
原田平作		西山翠嶂の芸術	『西山翠嶂、知られざる京都画壇の巨匠』展図録		海の見える杜美術館	2018年10月
原田平作		日本美術史における主流・側流・傍流、そして中央と地方—印象と古蹟、そして雪舟、波響、絵金、一村の場合	『美術フォーラム21』	第37号	美術フォーラム21	2018年5月
廣瀬就久		大久保英治展 日常の歩行—伽耶六国から吉備へ—制作録	特別展示『大久保英治展 日常の歩行—伽耶六国から吉備へ—』小冊子(第2冊)		岡山県立美術館	2018年11月
廣瀬就久		展覧会概説 小圃千浦の父、六—とともに	特別展示『小圃千浦 カリフォルニアに生きる』小冊子		岡山県立美術館	2019年1月
廣瀬就久		宮忠子展について	『岡山県立美術館紀要』	第9号	岡山県立美術館	2019年3月
福江良純		「基本形」と近代彫刻の原理—石井鶴三「島崎藤村先生像」制作事例から—	『図学研究』	53巻3号	日本図学会	2018年9月
福江良純		橋本平八《裸形少年像》と木材の克服—木彫と「木製の彫刻」を分ける眼差し—	『日本研究』	第58集	国際日本文化研究センター	2018年12月
福江良純		翻訳 笹村草家人 “My Present to memory” —イサム・ノグチに伝えられた日本近代彫刻史と石井鶴三—	『信州大学附属図書館研究』	第8号	信州大学附属図書館	2019年2月

藤井明		明治彫刻の言葉をめぐって	『彫刻コトハジメ』展図録		小平市平櫛田中彫刻美術館	2018年9月
藤井明		『中村傳三郎美術批評集成』（編著）			国書刊行会	2018年10月
藤井明		佐藤朝山（玄々）・朝倉文夫・北村西望による《和気清麻呂像》の競作騒動をめぐって	『近代彫刻の天才 佐藤玄々（朝山）』展図録		求龍堂	2018年11月
三浦篤		モネの《草上の昼食》—レアリスムと印象派のはざままで	『プーシキン美術館展—旅するフランス風景画』図録		朝日新聞社	2018年7月
三浦篤		『エドゥアール・マネ 西洋美術史の革命』			KADOKAWA	2018年10月
三上美和		荒井寛方について	『アネモメトリー風の手帳』（webマガジン）	270	京都造形芸術大学 通信教育部	2018年6月
三上美和		荒井寛方の画業（1） 初期活動を中心に	『アネモメトリー風の手帳』（webマガジン）	283	京都造形芸術大学 通信教育部	2018年9月
三上美和		荒井寛方の画業（2）—画業の深まりと特質について—	『アネモメトリー風の手帳』（webマガジン）		京都造形芸術大学 通信教育部	2018年12月
南明日香		パリ装飾芸術美術館浮世絵版画展 1909～1914年			エディション・シナプス	2018年9月
南明日香		La Redécouverte de l'Ukiyo-e au cours des années 1910	<i>Japon Pluriel 12</i>		SFEJ,ed.Picquier	2019年1月
南明日香		全集未収録永井荷風「仏國文藝の浮世絵研究」について	『相模国文』	46号	相模女子大学国文研究会	2019年3月
宮下規久朗		刺青と日本文化—危機に瀕する伝統美	『世界』	912	岩波書店	2018年4月
宮下規久朗		『聖と俗 分断と架橋の美術史』			岩波書店	2018年5月
宮下規久朗		『その時、西洋では一時代で比べる日本美術と西洋美術』			小学館	2019年3月
村角紀子	多田羅多起子、江村知子	「相見香雨自筆調査録」解説	『記録された日本美術史—相見香雨、田中一松、土居次義の調査ノート—』展パンフレット		京都工芸繊維大学 美術工芸資料館、 実践女子大学香雪 記念資料館	2018年5月
村角紀子	桑原羊次郎・相見香雨研究会編（西島太郎、小林奈緒子、大森拓土、林みちこ、藤間寛、昌子喜信）	第1章 桑原羊次郎とは「第4章 装剣金工研究 第5章 肉筆浮世絵の研究と蒐集 第7章 社会事業とハーン顕彰」 略年譜	松江市ふるさと文庫21『郷土のエンサイクロペディア 桑原羊次郎』		松江市歴史まちづくり部史料編纂課	2018年12月
村角紀子	村角紀子編	解説 藤岡作太郎の絵画史ネットワーク—郷里・帝都・旧都—	『藤岡作太郎「李花亭日記」美術篇』		中央公論美術出版	2019年3月
村田隆志		近代南画と「地方」の視座—「日本南画名作展」と『日本南画人小伝』をめぐって—	『美術フォーラム21』	第37号	美術フォーラム21	2018年5月
村田隆志		琳派の書画表現と毛筆の影響—光悦・宗達の用筆の問題を中心に—	『筆が奏でる琳派の美』		筆の里工房	2018年9月
村田隆志（監修）		『（山）長谷川コレクション 日本美術の名品—江戸から明治まで—』			山形美術館	2018年12月
森谷美保		洋画家小糸源太郎の大津絵コレクション	『もうひとつの江戸絵画 大津絵』		公益財団法人日勤美術財団	2018年6月
森谷美保		柳宗悦と山梨の木喰研究者たち	『生涯三百年 木喰展』		身延町	2018年7月
森登		銅・石版画遺聞70 藤島武二の版画図版と『はな』	『一寸』	74号	学藝書院	2018年6月
森登		銅・石版画遺聞72 開拓使の石版と『正智遺稿』の異版及び写真版	『一寸』	76号	学藝書院	2018年12月

森登		銅・石版画遺聞73 ジャック・リゴアの銅版画から	『一寸』	77号	学藝書院	2019年3月
森芳功		日下八光の生涯と画業	『日下八光日本画展 自然美の探求と知られざる画業』図録		徳島県立近代美術館	2018年9月
柳田さやか		日展第五科(書)の誕生とその背景	『大学書道研究』	12号	全国大学書道学会	2019年3月
山嶋菜未		岡田三郎助による「美人イメージ」の創出	『モダン美人誕生－岡田三郎助と近代のよそおい』		ポーラ美術館	2018年12月
横田香世		油彩からパステルへ、矢崎千代二の絵画制作と信条	『矢崎千代二 絵の旅』図録		横須賀美術館	2018年11月
吉崎真弓		武藤嘉亭《下町の思い出》－山川秀峰と上野・浅草の記憶	『藝叢』	34号	筑波大学芸術系美術史研究室	2019年3月
依田徹		『皇室と茶の湯』			淡交社	2019年3月
和田千春		フェノロサの雪舟論にみえるヘーゲルの絵画論の受容と展開	『Loutus』	39号	日本フェノロサ学会	2019年3月
辻泰岳		方法としてのディスプレイ：国立近代美術館の会場設計について	『文化資源学』	16号	文化資源学会	2018年6月
辻泰岳		Metabolism in Visual Culture: 菊竹清訓と田中一光の共同について	『学術研究助成紀要』	1号	DNP文化振興財団	2018年11月
辻泰岳		揺れる金字塔：映画『超高層のあけぼの』にみる霞が関ビルディングのテクノロジー	『世界建築史15講』		彰国社	2019年3月